令和6年度　東久留米市立　　久留米中学校　学校評価報告書

学校教育目標	平和で民主的な国家形成のため、社会連帯性と実践力に富んだ主体性のある個性豊かな社会人を育成する。 ○知性を高める　○心を豊かにする ○体を鍛える	教育ビジョン	【目指す学校像】 「ワンチーム久留米中（支持的風土の学校づくり）」　・保護者が学校に信頼感をもち、安心して生徒を通わせることができ、期待に応える努力をする学校　・生徒が学力を高め、自分の成長が実感でき、自らを生かすことができる学校　・人権が守られ、地域や保護者、生徒と教師の信頼関係が築かれている学校　・教職員が指導力を身に付け、率先垂範して常に学び続ける学校　・教職員が、全ての生徒を育てることに誇りと情熱をもつ学校
			【目指す児童・生徒像】 ・自分自身と社会に役立つための知識や教養を主体的・積極的に身に付け、活用することができる生徒　・公徳心に立った礼節をわきまえ、心豊かに多様な人々と関わり合いながら共に生きる生徒 ・心身を鍛え、困難に負けずに生き抜く、たくましい生徒　・目標に向かって真剣に取り組み、努力を惜しまず最後まで成し遂げる生徒
			【目指す教師像】 ・人権感覚を高め、生徒一人一人の個性を大切にする教師　・生徒の可能性を信じ、生徒の未来を拓く教師　・改善を常とし、不断の努力を惜しまない教師　・ライフ・ワーク・バランスを図り、自己の成長を追い求める教師 ※組織力の向上・・・学年や関係する分掌等への合意形成を図り、計画的に提案する
前年度までの学校経営上の成果と課題	○令和5年度に設定した短期的目標について、ほぼ全ての項目で教員の自己評価が肯定的回答であったことは成果であるが、保護者・生徒の受け止めとの乖離が大きいことは課題である。 ●学力向上においては家庭学習の目安時間は示したものの、組織的な具体的取り組みは行われておらず、家庭学習が定着せず、生徒の学力向上につながらなかったことは課題である。 ●自己肯定感・自己有用感の醸成に向けて、実施要綱等にねらいとして示したものの、具体的な取り組みにはつながっておらず、生徒への指導における人権感覚が高まらなかった教員が一定数いたことは課題である。 ●組織的な取り組みが行われておらず、一教員の力量に任せた対応や、学年任せの対応になっていたことは大きな課題であり、生徒のみならず、地域や保護者のためにも早急に解決しなければならない課題である。		

東久留米市第3次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	（令和8年度までの3年間）	（1年間）	取組指標	成果指標	取組（教員）	成果（生徒・保護者）	評価	コメント	
1	Ⅰ　人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	人権尊重教育の推進	自立した社会人になるために、人権尊重の理念に基づき、互いに認め合い、協力し合う心の育成を図り、偏見や差別を許さない学校風土を創出する。	①教師が生徒との人権を尊重した関係を築くために、敬称を付けた呼び方を励行する。 ②特別な支援を必要とする生徒に対し、その特性を理解すると共に、できること・得意なことを伸ばす指導を心がけるなど、成功体験を増やし、自己肯定感を高める。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「生徒を呼ぶ時に敬称を付けるなど、生徒の人格を尊重している」について、肯定的回答 90%以上 ②「生徒をほめ、良さを認め、自信をもって活動ができるように生徒を支えている」について、肯定的回答90%以上	【学校関係者評価（生徒向け）】 ①「先生は、生徒を呼ぶ時に敬称（くん、さん）を付けるなど、生徒の人格を尊重している」について、肯定的回答80%以上 【学校生活意識調査（生徒用）】 ①「自分にはよいところがありますか」について、肯定的回答80%以上 ②「自分のことを分かってくれる人はいますか」について、肯定的回答80%以上	①敬称 教員92.3% ②良さを認める 教員100% 4	①敬称 生徒86.0%　保護者93.3% ①よいところ 生徒86.4% ②分かってくれる人 生徒91.0% 4	4	・子どもの人権尊重を基軸とした教育を推奨し、その実践が図られていること、また90%以上の生徒が学校生活に満足できていることが多いに評価できる。このことは、生徒一人一人がお互いの個性を認め合い、他人を思い合える気持ちの醸成とともに、この先の豊かな人生を歩んでいくことに繋がると思います。 ・生徒を呼ぶ時の敬称は、教員が意識をすればすぐにでもできる実践であり、呼ばれている当該生徒だけでなく、その呼称を周囲で聞いている生徒にとっても、誰もが人格を尊重されている安心感につながっていると思います。 ・授業や学校行事を参観すると、生徒が安心して仲良く意欲的に取組んでいる姿が見られます。教職員の皆さまが一人一人の生徒を大切にしていることが伝わり、その結果はアンケートの全体的な数値にも表れていると感じます。教職員の皆さまの姿勢と取組に感謝いたします。 ・教員、生徒、保護者の三者において目標値を超えたことは素晴らしいと思います。人格の尊重や生徒の自己肯定感を高める取組がこのように高い水準で実施されていることが、高校でも継続されるよう見習わなければなりません。 ・敬称を付けた呼び方の励行は「初めの一歩」だと思います。生徒一人一人が人権の意義や内容を理解することが重要で、それぞれの場面でその事が態度や行動に表れるとよいです。 ・敬称については、25年前に小学校ですでに全員「さん」付での統一がなされていたので、中学校での取組は見過ごしていたように感じました。敬称の有無によって先生と生徒との距離が近いように感じられたり、また逆に先生を"○○ちゃん"やあだ名で呼んでいいと先生から提案する場合もあるようだが、それによって生徒の評価が変わるという話も耳にしたばかりなので難しい問題だと感じています。全て統一は難しいにしても公平感を鑑みて、校内で共通認識はしておき、違和感がある場合には教員同士で指摘し合えるようなフラットな職員室を目指していただけたらと願っています。	・教師が生徒の人権を尊重した関係を築くために、敬称を付けた呼び方を励行することは継続する。 ただし、部活動においては、その特性も理解していただき、敬称を付けないこともあることを保護者や生徒に確認する。また。生徒一人一人の考え方も異なるので、個別相談にも対応する。 ・特別な支援を必要とする生徒だけでなく、生徒全員を対象として自己肯定感を高めることができるように、個々の特性を理解し、できること・得意なことを伸ばす指導を心がけ、生徒一人一人の成功体験を増やす。
2	Ⅰ　人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	不登校問題への対応	不登校が生じない魅力ある学校づくりを行うことを通し、不登校生徒の新規発生を防ぐ。	①教職員による「居場所づくり」と生徒自身による「きずなづくり」を意識した教育活動を展開するため、学習場面及び生活場面における具体的な仕掛けを学校、学年、教科等の単位で行う。 ②学校生活意識調査を年間2回実施し、生徒の意見を聞き取ると共に、結果を分析することにより魅力ある学校づくりに向けた改善点を見いだす。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「生徒が安心・安全な学校生活を送ることができる学級づくり（居場所づくり、きずなづくり）を行っている」について肯定的回答90%以上 ①「学校行事（運動会、合唱コンクールなど）は、生徒の学校生活が充実することにつながっている」について、肯定的回答90%以上 【学校生活意識調査】 ②年間の実施回数と分析結果の提示及び教育課程、学校経営計画への反映状況	【学校生活意識調査（生徒用）】 ①「学校が楽しいですか」について、肯定的回答80%以上 ②「みんなで何かをすることは楽しいですか」について、肯定的回答80%以上 【学校関係者評価（生徒向け）】 ①「先生は、生徒をほめ、良さを認め、自信をもって活動できるように支えてくれている」について、肯定的回答80%以上	①安心・安全 教員92.3% ①学校生活 教員100% ②学校生活意識調査 年間2回実施 分析結果公開 4	①学校が楽しい 生徒90.7% ②みんなで～楽しい 生徒94.6% ①生徒をほめ良さを認める 生徒92.7%　保護者89.5% 4	4	・良さを認める教育について、見えにくい部分ではあるが、保護者の評価が高いところが素晴らしいと思う。 ・生徒の良さに気付く、見付ける、生徒に伝える、ほめるといったことを繰り返しながら、生徒の自己肯定感を高めていくことで、お互いに認め合う学校・学級風土作りを継続してほしいと思う。引き続き、学校や学級が生徒にとって安全・安心な場所となり、教職員と生徒、生徒同士のきずなが醸成されるような取組を進めてください。 ・教員、生徒、保護者の三者において目標値を超えたことは素晴らしいことです。また、否定的な受け止めが1割程度あることに着目し、その生徒にこそ具体的な手立てを講じることが重要と捉えていることも高く評価できます。多様な生徒を抱えながら100%の達成率は難易度が高いでしょうが、継続的な目標として取り組まれる姿勢が見られることが評価できます。 ・教職員による「居場所づくり」と生徒自身による「きずなづくり」の取組は評価できると思います。その中でも「取り残された感がある生徒に気付き、声かけや早めの対応が期待されます。 ・不登校生徒、または予備軍の生徒の対応について先生方で学習会を開催するなど、共通認識と対応の必要性はないでしょうか。先生によって、または生徒によって対応を極端に変えることなく、校内における一貫したルール作りや小まめなケース会議を行いながら、多様な対応と共に、中学校生活で培うことのできる経験を見守りながら促していってもらえたらと感じました。	・取組指標や成果指標としては、評価基準を超えることはできた。しかし、否定的な回答をしている1割程度の生徒にも焦点を当てた取組を充実させることが必要である。関係する質問への否定的な回答をしている生徒を抽出し、具体的な手だてを講じていきたい。 ・項番「8」でも触れるが、学力に不安があるため登校に結び付かないケースも散見されるため、地域や保護者、近隣の関係機関等と連携し、生徒の学力補充を行うことも必要と考える。
3	Ⅰ　人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	不登校問題への対応	不登校生徒減少に向けた対応の迅速化と関係機関との連携を強化する。	①生徒の状況を把握し、情報共有すると共に、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談室、適応指導教室等の関係諸機関とつなげることで、大人とのつながりがない生徒を「0（ゼロ）」にする。 ②オープンセサミ（O・S）による支援を積極的に行うことができる体制を整える。	【問題行動調査、不登校状況調査等】 ①不登校生徒のうち、別室登校や学習適応教室、家庭とのオンライン等により、学校や他機関とつながっている生徒の割合 【学校関係者評価（教員向け）】 ②「不登校に対して関係機関等（オープン・セサミ、適応指導教室等）と連携し、早期発見、早期対応に向けて取り組んでいる」について肯定的回答90%以上	【学校生活意識調査（生徒用）】 ①「学校には困った時に相談できる大人がいますか」について、肯定的回答80%以上 【個別支援シート一覧表】 ②不登校を理由とする欠席が年間30日以上の生徒の割合を7．0%以下（R5は出現率7．1%　29/410）	①不登校生徒のつながり つながりがない生徒は0% ②関係機関等との連携 教員92.3% 4	①相談できる大人 生徒82.8% ＊学校は相談に応じるか 保護者86.9% ②不登校生徒割合 7.0%以下 3	3.6	・不登校に対して手だてがとられ、改善が見られる。 ・発達段階的に難しいかもしれないが、「困った時に相談できる大人がいますか」の否定的な意見が20%前後の1，2年生（特に2年生）は心配である。 ・不登校生徒について、確実に学校外の機関とのつながりを持たせており、外部機関との連携に対する教員の意識も高い割合で維持されていて高く評価できます。校内に相談できる大人が高い割合で存在している環境を作ることができたことも重要です。全国的に不登校生徒の増加が報告される中で、目標の達成は難易度が高いかもしれませんが、重要課題として生徒の多様性に着目している学校の姿勢も評価できます。 ・不登校生徒一人一人に丁寧な対応をされていると思います。すぐに登校に結び付かない難しさもあると思いますが、教職員、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカー等と連携し「つながり」を継続し、復帰に繋げて頂きたいと思います。 ・繋がりのない生徒が「0」になったというのは素晴らしい取組の結果だと感じた。丁寧に対応していたことが数字としても現れたのではないだろうか。校内にたった1人でも頼れる大人が居るか居ないかで全く生徒のこころの有りようが変わってくると感じている。様々な大人の目で、且つ、連携しながら1人の生徒を見守っていけるように、先生方の横だけでなく、縦や斜めの連携も行っていただけたらと願っている。	・　不登校生徒について、学校や他機関とつながりがない生徒は「0」にできた。本校にはOSという生徒を支援することができる居場所としての機能があるが、より効果的な活用ができるよう教職員の活用及び対応の共通理解を深める必要がある。 ・また、不登校であっても一人一人の状況は異なるので、復帰率等も成果指標とできるようにし、教員の取組の見える化を図る。 ・次年度は、不登校巡回指導教員配置校になるため、当該教員が中心となり、不登校に係る早期対応等ができるよう、情報交換・対応協議ができる分掌を新たに立ち上げる。
4	Ⅰ　人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	個性を認め合う教育の涵養	いじめ問題への対応	東久留米市及び本校のいじめ防止基本方針に基づいた取組を確実に推進する。	①生徒会の作成した「いじめ撲滅宣言」が生徒の行動基準になるよう指導すると共に、いじめ撲滅の具現化に向けた具体的な活動を生徒に考えさせ、実施する。 ②いじめ発生時には迅速に「学校いじめ対策委員会」を開催し組織的に対応する。認知したいじめについては、関係する保護者への連絡を欠かさず、指導後の状況も共有する。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「いじめ未然防止に向けて、何がいじめなのかを生徒に理解させるとともに、生徒が主体となった取組を行っている」について肯定的回答90%以上 ②「いじめ発見時には、生徒への指導及び保護者への連絡を迅速かつ丁寧に行っている」について肯定的回答90%以上	【学校関係者評価（生徒向け）】 ①「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定的回答100% ②「先生は、いじめが発生した時に、すぐに丁寧に対応してくれていますか」について、肯定的回答80%以上	①いじめへの取組 教員84.6% ②いじめへの対応 教員96.2% 3	①いじめはいけない 生徒97.1% ＊いじめ防止への取組 保護者85.7% ②いじめへの対応 生徒92.1% ＊いじめ発見時の対応 保護者88.9% 3	3.1	・いじめの防止と対応について、生徒は「先生はいじめを許さない指導をしている」に90%以上が肯定的回答をしていることが素晴らしいです。一方、教員の学校関係者評価で「いじめの未然防止」の肯定的な回答がやや低かった点については、生徒が主体となった取組に工夫の余地があるかもしれません。 ・いじめの未然防止について、十分と感じている教員が目標値に届きませんでしたが、もっとできるはずだという観点からの結果と肯定的に捉えることもできます。いじめへの対応については、良好な数値でありながらも、教員の評価に対し生徒の評価がやや下回っていますが、発見時の対応は高く評価できると思います。生徒主体のいじめ撲滅の活動が実現できていることも実に素晴らしいと思います。 ・生徒会が中心となった「いじめ撲滅宣言」等の活用は久留米中の特色として引き続き後輩たちに引き継いでいって欲しいです。 ・人権尊重の理解と共に、なぜいじめが起こるのか、いじめる側の心理について考えたり、ディスカッションすることがあってもよいのかなと思いました。 ・学年が上がるごとにいじめの対応は困難になり、先生方のご苦労が伺える。SNSなど学校では見えずらい環境下で悪化していくケースも増えているようだ。アンケートだけでは浮上しない事例も水面下にはあると思うが、極力、日頃から相談しやすい雰囲気を作り、不登校等の深刻な事態になる前に解決できる力を生徒が持てるような指導を行っていただけたらと思う。	・いじめへの対応は数値としては概ね良好ではある。今年度、いじめの対応については、いじめの認知から被害・加害者への対応、保護者への連絡等を徹底し、認知後、最低3か月間は継続して関係性を見取り、当該生徒及び保護者への確認をもって、いじめの解消とするよう努めてきた。この流れを、次年度も更に徹底するとともに、全教員が保護者に対して、本校のいじめ防止基本方針の説明ができるようにする必要がある。 ・平成29年に当時の生徒会役員が中心となって作成した「久留米中学校　いじめ撲滅宣言」等を活用し、生徒が主体的になったいじめ対応への意欲を醸成していきたい。
5	Ⅰ　人権尊重の精神の涵養と健やかな心と体の育成	規範意識や他人を思いやる心を育む教育の推進 生涯にわたって育む健やかな体づくり	道徳教育の充実 体育・健康に関する教育の充実	「考え、議論する道徳」を実現するとともに、規範意識の醸成を図る。また、体育・健康に関する教育の充実を図る。	①道徳授業の計画的な実施（学年内ローテーション道徳含む）により、豊かな心の育成を図る。 ②挨拶の励行を呼びかけ、社会の一員としてのルールやマナーを身に付けさせる。 ③運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、判断すると共に、他者に伝える力を養う。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「学校での生活を通して、他者と共によりよく生きるための力を育むように指導している」について肯定的回答90%以上 ②「生徒が日常の学校生活を通して、あいさつできるように、自らが模範となるように努めている」について肯定的回答90%以上 ③「学校での生活を通して、体力や食、生活習慣をはじめ、健康な生活を送る力が育まれるように指導している」について肯定的回答90%以上	【学校関係者評価（生徒向け）】 ①「人が困っている時には、進んで助けていますか」について肯定的回答90%以上 ②「日常の学校生活を通して、あいさつすることが身に付いていますか」について肯定的回答80%以上 ③「運動やスポーツをすることが好きですか」について肯定的回答80%以上	①他者とよりよく生きる 教員96.2% ②あいさつ 教員96.2% ③健康な生活 教員96/2% 4	①人を助ける 生徒93.0% ＊他者とよりよく生きる力 保護者94.2% ②あいさつ 生徒96.5%　保護者91.3% ③運動やスポーツが好き 生徒78.7% ＊健康な生活 保護者88.9% 4	3.7	・「運動やスポーツ」が苦手でも楽しめ、挑戦できる体育授業としては、従来の概念を超えた身体活動の必要を感じる。そもそも精神面や対人関係から緊張や強張り、姿勢の悪さが生じ、身体コントロールがうまく行かない場合が少なくない。 ・心身をほぐし、他者との信頼関係を築く演劇教育的な身体ワークショップ（Ex、エア大縄やエアキャッチボール）、本校のSCも取組んでいたストレスマネージメントとしての身体活動の導入を期待したい。 ・他者とより よく生きることや、健全で健康的な学校生活を送ることについて、何れも非常に高い数値で、目標を十分に達成されています。素晴らしい結果です。インドア派やおとなしい生徒の一定割合いることを考えると、運動やスポーツが好きな生徒の割合が目標を下回っても、十分良い結果だと言えると思います。 ・いつも気持ちの良いあいさつをしてくれます。素晴らしいです。 ・他の人の立場に立ってその人に必要なことや、その人の考えや気持ちが分かるような理解力や共感力を育てていただきたいです。 ・あいさつについては、おおむね身に付いていると感じています。運動やスポーツは個人差がある項目なので何とも言えないのですが、年々運動会の見ごたえが少なくなっていることは残念に感じています。アンケートにあった体育の授業はもう少し改善できるように感じるため、今後、工夫して運動が苦手な生徒でも参加しようと思う指導を行っていただけたらと願っています。	・あいさつの項目は、教員、生徒、保護者ともに肯定的回答が非常に高くなった。あいさつはコミュニケーションの基本であり、今以上に気持ちが良い あいさつができる学校としたい。次年度は、本校内のあいさつ運動のみならず、生徒の意見を聞きながら、地域等に開かれたあいさつ運動などの開催も検討していきたい。 ・「運動やスポーツが好きか」の項目については、生徒の肯定的な回答が8割を下回った。運動が苦手な生徒も一定数いることを理解した上で、これまでも工夫しているが、今後もさらに、運動が苦手でも楽しむことができたり、挑戦したりすることができる体育の授業展開としていきたい。

東久留米市第3次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	（令和8年度までの3年間）	（1年間）	取組指標	成果指標	取組（教員）	成果 （生徒・保護者）	評価	コメント	
6	Ⅱ　人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	東久留米スタンダード（学習指導編）に基づき、生徒にとって楽しい授業、分かりやすい授業、基礎基本が身に付く授業を展開する。	①単元指導計画に基づいて、「本時のねらい」を示し、「何を学習するのか」「何ができればよいのか」を捉えさせるとともに、本時の見通しをもたせる。 ②生徒一人一人に本時の授業を振り返らせ、何を学習したのか、何ができるようになったのかを明確にし、新たな学びに目を向けさせる。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「授業を通して、分かることやできることが増えるよう、授業の振り返りを通して、生徒に理解度を確認させている」について肯定的回答90%以上 ②「生徒の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別の声かけや個別指導を行っている」について肯定的回答90%以上	【学校生活意識調査（生徒用）】 ①「授業がよく分かりますか」について肯定的回答80%以上 【学校関係者評価（生徒向け）】 ①「学校での授業を通して、分かることやできることが増えていますか」について肯定的回答80%以上 ②「先生は、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれていますか」について肯定的回答80%以上	○授業理解 教員96.2% ○個別指導 教員96.2% 4	○授業が分かる 生徒82.3% ○分かるできるが増える 生徒93.3%　保護者84.3% ○個別指導 生徒84.1%　保護者68.8% 3	3.4	・確かな学力の育成については、授業改善だけに留まらない更なる取組が必要だと思います。各ご家庭での学習時間の確保等の協力も得ながら、学力向上に資する取組を進めていくことが望まれます。 ・混迷し、不確かな時代にあっては、正解のない、あるいは多様な答えのある問題に直面せざるを得ない。そうしたことも踏まえて、課題解決力だけでなく、課題発見力を育てる学び、学び方を学べる確かな学力の育成に努めて頂きたい。 ・学習状況の調査について、何れも目標値より高い数値となり、高く評価できます。意欲のある生徒に対し教員が指導で応えて、良い授業で生徒が分かりやすく感じていることが数値に反映しているのでしょう。今後の継続して授業改善に取り組んで頂きたいと思います。一方で、教員の負担も考慮され、今後は地域や保護者との連携を検討されていることも高く評価できます。 ・教科書は同じですが、プリント等は先生が個別に作成されているとのことでした。良い取組の事例等、情報共有していただき、授業の改善につなげていただきたいです。 ・学力に開きのある生徒たちへ、等しく授業を行っていくことはとてもご苦労なさっていることと感じている。教育格差という言葉が生まれてから随分経つと思うが、その開きはどんどん大きくなっているように感じている。それらを埋めるために多くの工夫を行っていただいていると思うが、取り残された生徒の更なるサポート体制の必要性も感じている。	・令和7・8年度の2年間、本市研究推進校としての指定を受け、「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて～自立的な学習者の育成を目指して～（案）」を研究主題とし、生徒一人一人の確かな学力の育成及び教員の授業改善に取り組んでいきたい。 ・個別の対応については、定期考査前の放課後学習教室や昼休みの学習教室、夏季休業期間補充教室等も教員が行っているので、継続実施する。しかし、教員による個別支援は限界になっているため、地域や保護者、近隣機関との連携による学習補充教室等の開催を次年度は模索し、持続可能な運営体制を構築する初年度としていきたい。
7	Ⅱ　人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	教室の中にある多様性を理解し、全ての子供たちの可能性を最大限に引き出すため、教師による一斉授業を「生徒主体の学び」へと転換する。	①導入、展開、終末における効果的なICT機器の活用を計画し、1単元につき1回は、生徒がタブレット型端末を活用した授業を展開する。 ②タブレット型端末を活用した家庭学習を1単元に付き1回は示す。 ③生徒による各学年、各教科の授業評価を年間2回実施し、結果を分析することで授業改善に努める。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「生徒のタブレット型端末やICT機器を活用した授業をどの程度行いましたか」について、週1回程度以上の割合80%以上 ②「生徒のタブレット型端末を、どの程度、家庭で利用できるようにしていますか」について、週1回程度以上の割合80%以上 【授業評価】 ③年間の実施回数と分析結果の提示及び教育課程、学校経営計画への反映状況	【学校関係者評価（生徒向け）】 ①「生徒一人一人に配備されたタブレット型端末やICT機器を授業でどの程度活用しましたか」について、ほぼ毎日または週3回以上と回答した生徒の割合80%以上 ②「生徒一人一人に配備されたタブレット型端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」について、毎日または時々持ち帰って利用している」と回答した生徒の割合70%以上	①タブレット型端末の活用 教員92.3% ②家庭学習 教員76.9% ③授業評価実施回数 年間1回 分析結果公開 3	①ICT機器等の活用 生徒98.7%　保護者99.2% ②家庭での利用 生徒89.5%　保護者95.4% 3	2.9	・「学校でタブレットを週3回以上使っている」の回答が98%以上になったことは大きな成果ですね。一方で、生徒の授業アンケートで「自分の考えの理由を友達に伝える」の肯定的回答が74．9%と他に比べて低い点については、学校が目指す「生徒主体の学び」の点から、意見交流の機会を増やす等、工夫できるかもしれません。 ・ICTの活用に関しては、情報取得だけでなく、生徒の個人思考を学級で共有したり、発話しにくい生徒の意見を引き出し発表したりする機会を作る等、双方向的授業、協働的な学びへの展開を期待したい。 ・メディア環境が複雑化し、過度な情報に翻弄されやすい時代、学校教育に求められているのはメディアリテラシーとその根幹であるクリティカルシンキングであると考えられ、ICT活用の基本に位置付けて頂きたい。 ・同時にデジタル情報ではない、生の環境との関係性を自らの心身を通じて深めることも視座に入れた活用を期待したい。 ・目標より高い結果となり、ICT機器などの活用が進んでいるようです。数値を見ると家庭での端末の利用については、今後の活用が一層期待できます。重い端末を持ち帰ることは負担です。高校でも端末の活用方法を教科書寄りにすべきかノート寄りにすべきか、活用方法の統一感がないことが課題だと感じています。教科書や補助教材のデジタル化が一層推進されるとよいですね。 ・タブレットの活用は先生方の努力もあり増えておりますが、「効果的な活用」については発展途上なのかなと感じました。 ・こちらについても、導入されたことでのメリットとデメリットはあるように感じています。授業参観の際に、同じ教室の中でも通信の状態が違っていたり、タブレット学習のせいなのか、テンポが早いため付いていくのを諦めてしまっている生徒を見かけたが、どこまで戻って指導していけば良いのか、先生方もとてもご苦労なさっていると感じました。今は過渡期であると思うのと、今後ITを使いこなせないと、どんどん窮地に置いていかれるように思うので、逆の意味での合理的配慮も必要になっていくのかと思いました。（タブレットではなく紙媒体で授業を受けたい、など）	・昨年度まで、本校ではタブレット型端末がほぼ活用されていなかったため、年度当初から活用促進に向けた周知を行ってきた。学校経営方針では、効果的なICT機器の活用を計画し、1単元につき1回は生徒がタブレット型端末を活用した授業を展開するように示したところである。授業における活用は、教員も意識して活用した結果、週1回程度活用したと回答した割合は非常に高くなった。 ・次年度に向けては、タブレット型端末を効果的に活用できるよう、本市教育推進校としての指定を受け、2年間の研究を行い、その成果を還元していきたい。 ・タブレット型端末の家庭での利用については、例えば、全学年で共通して、これまでノートにメモをしていた明日の連絡事項等を配信し、いつでも確認できる状況とし、家庭における必要性を高めていきたい。また、学校の授業でできることと、家庭学習でもできることを差別化し、タブレット型端末を活用した宿題についても、さらに　計画的に提示できるようにしていきたい。
8	Ⅱ　人生を切り拓き、社会を創る確かな学力の育成	確かな学力の育成	連携・協働による教育活動の推進	小中高連携による学力向上に向けた取組を推進し、更なる連携により生徒の教育活動を豊かなものにする。	①小学校のサマースクール等の学力向上方策に、本校の生徒をボランティアとして参加させることにより、生徒の学習への意欲の向上と基礎学力の定着を図る。 ②近隣の都立高校と連携したり、地域の人材を活用したりすることにより、本校の教育内容の充実を図る。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「学校は、生徒の学力向上に向け、近隣の小学校や地域等と協力して教育活動を行っている」について、肯定的回答80%以上 ②「学校は、地域の教育環境（都立高校等）を生かし、教育内容の充実を図っている」について、肯定的回答80%以上	【小学校への夏季補充教室へのボランティア生徒の参加状況】 ①延べ30人程度 【都立高校との具体的な連携状況】 ②都立高校と連携した教育活動への本校生徒の参加が延べ30人程度 【学校関係者評価（生徒向け）】 ③「地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思いますか」について肯定的回答70%以上	①近隣小学校との連携 教員73.1% ②地域の教育環境の活用 教員42.3% 2	①算数ボランティア 生徒延べ64名参加 ②都立高校と連携した活動 ※実施できず ※代替としてパズル教室 生徒延べ65名参加 ③地域や社会をよくする 生徒78.7% 4	3.3	・夏休み、算数教室の取組が良かった。小学生は分からないところをすぐに教えてもらえて喜んでいた。中学生も自己肯定感が上がったのではないかと思う。 ・小学校のサマースクールへの生徒のボランティア参加など、小中連携による教育活動の推進のみならず、参加した生徒の自信や主体性を育むことにも繋がっていると思います。事前準備や調整など大変だと思いますが、次年度も取組みを継続してほしいと思います。 ・小中高連携による取組では、小学校の夏季算数補充教室に多くの生徒さんがご参加くださり、小学校の教育活動もより豊かになったことを感謝申し上げます。 ・生徒の学校関係者評価で「地域や社会をよくするために何かしてみたい」のこういてきかいとうが78．7%と他に比べて低い点については、希望者だけでなく、より多くの生徒が関わるような工夫が効果的かもしれません。 ・常に地域の教育環境を生かした連携事業を計画・実行され素晴らしい取組となっています。生徒が地域の中で成長していける教育を実現されていると思います。次年度に向けて、より具体的な協力ができるように努めてまいります。 ・今年度の取組はとても良いと思いました。ご苦労も多いと思いますが、是非継続して頂けたらと思います。 ・たくさんの新たな取り組みや試み、本当にお疲れ様です。習い事やクラブチーム、塾と部活など現代の中学生はとても忙しく、時間に追われているように思います。しかし、そのようなことを様々な理由で経験できない生徒もいると思うので、先生方の負担が大きくならないところでお願いできたらと思います。	・今年度は、小学校との連携し、本村小学校と小山小学校への夏季算数補充教室への生徒のボランティア派遣を行った。近隣都立高校と連携した学力補充教室の企画は難航したため、地域で私塾を経営している代表の方々と連携し、東田式パズル教室を開催した。この2点については、次年度も継続実施方定である。 ・生徒の確かな学力の育成に向け、次年度は「小中連携の更なる強化」と教員以外の地域・保護者・関係機関との連携を図った放課後の学習補充教室等を模索することを考えている。卒業生や近隣大学、高校などとの連携や、現時点で配置されている人材の業務形態を変えることで、放課後の学習補充教室を実施可能なものとしたい。また、これまで本校を会場として教員が行ってきた検定（英検・漢検・数検）についても、地域や保護者の協力を得て実施できる環境を構築する試行年度としていきたい。
9	Ⅲ　時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	持続可能な指導体制の整備	組織体としての学校機能の強化	積極的な情報発信とPDCAサイクルによる学校評価を充実させることを通し、時代の要請にこたえる信頼される学校づくりを行う。	①学校ホームページを刷新するとともに常に必要な情報を掲載するとともに、地域や保護者に向けた情報発信を頻繁に行う。 ②教育活動に関するアンケート（12月）を生徒・保護者を対象に行うと共に、教職員で実施する自己評価と合わせて学校関係者評価委員会で協議し、PDCAサイクルによる学校評価を充実させる。	【学校関係者評価（教員向け）】 ①「学校は、学校・学年だより、学校ホームページ、マチコミメールなどで学校生活の様子を積極的に発信している」について肯定的回答90%以上 ②「学校は、教育活動に関するアンケート調査を行い、評価結果と、それに基づく改善策等を発信している」について肯定的回答90%以上	【学校ホームページの更新回数】 ①閲覧回数を昨年度から倍増 ②更新回数を100回以上 【学校関係者評価の実施と分析】 12月に生徒・保護者・教職員を対象としたアンケート調査を実施 ①分析結果を学校関係者評価委員会に提示し、次年度に向けた具体的な改善点を見いだす。 ②分析状況を学校ホームページで開示 【学校関係者評価（生徒向け）】	①情報発信 教員88.5% ②評価に基づく改善策発信 教員92.3% 3	①②学校HP 閲覧回数 R5：1日あたり10件前後 R6：1日あたり50件前後 ＊最大は200件超 更新回数5/22～11/30までで160回以上（ほぼ毎日） 4	4	・学校生活の様子、学校からの情報・連絡等を積極的に発信することが、教育活動の一環（必要なこと）になっていると感じています。そのような時代の流れ（要請）等に対応し、閲覧しやすいホームページへの刷新や更新回数の増などに確実に取り組んでいると思います。 ・情報発信の取組について、久留米中だよりをお送りいただきありがとうございます。その他、ホームページの更新など、実績を上げており、閲覧回数については、昨年度の5倍を記録するなど、素晴らしい成果だと思います。学校評価についても、詳細な資料と分析結果が示され、具体的な改善につながることが期待できます。 ・ホームページの更新回数の改善等、時間も労力もかかる中で取り組まれ、有効的な情報発信に繋がっていると思いました。先生方が転勤されても持続できるような体制づくり、大変だと思いますがよろしくお願いいたします。 ・ほぼ毎日の更新ということですが、本当にお疲れ様です。こちらも、どうかご負担のないように交代制にするなどして、ご無理なさらずに継続していただけたらと思っています。	・前年度までは学校ホームページの更新が滞っており、今年度当初に掲載内容も含めて刷新した。閲覧回数は、年度当初は1日当たり10件前後であったが、刷新した5月22日以降は、平均して閲覧者が1日あたり50件前後となった。ほぼ毎日、学校ブログを通じて学年や学校の取組を発信しており、更新回数は12月末日時点で180回を超えている。 ・現在は、管理職が中心となってホームページの更新を行っているが、ブログの更新の他、情報の発信を分掌として位置付けた上で管理する組織体制にすることにより、持続可能な状況とすることが次年度以降に求められる。
10	Ⅲ　時代の要請にこたえる信頼される学校づくり	持続可能な指導体制の整備	組織体としての学校機能の強化	学校における「働き方改革」の推進と、教員の資質・能力の向上を図る。	①教員の在校等時間を把握し、業務の平準化を図ると共に、ライフ・ワーク・バランス満足度調査の実施100%を目指し、結果を分析することで課題点を整理し、解決策を講じる。 ②OJT計画を策定し、主任教諭等による教諭への計画的なOJTを行う。	【ライフワークバランス調査】 ①教職員の回答率及び分析、解決策の提示状況 ②組織的なOJTの実施	【ライフワークバランス調査】 ①教職員の回答率100% ①昨年度と比較した分析結果及び具体的な解決策の提示状況 ②男性教員の育児休暇取得状況 ③OJTの実施実績	○ライフワークバランス調査 ○組織的なOJT 計画的な年間計画の作成 4	○ライフワークバランス調査 ○男性教員の育休 対象者1名100%取得 ○OJT担当者を明確にし、計画的かつ組織的なOJTを年間10回実施 4	3.7	・教員の学校関係者評価で「動務全体に満足している」の肯定的回答が80．8%と他に比べて低かった点がやや心配です。学校として「やった方がより望ましいこと」はたくさんありますが、先生方自身がやりがいを感じられるような主体的な進め方や、負担が大きすぎないような配慮を「持続可能な指導体制」として意識していくと良いと思います。 ・授業方法に関する校内研修に関しては、ベテラン・新人に関わらず、従来のような一斉授業による教示的・一方的な学びではなく、対話型の協働的な学びの実践につなげていただきたい。 ・取組使用、成果指標が明確で分かりやすい。 ・教職員のアンケートで、「久留米中での勤務には、全体として満足している」に対して、否定的な回答が19．2%という要因について探る必要がある。 ・ライフワークバランスについて教職員の意識も変わってきていますが、具体的な改善につなげるのは容易ではないと思います。しかし、調査の実施や男性の育休取得の実績は、意識の向上や取得しやすい環境づくりにつながることが期待できます。OJTについて、担当者の指名や10回の研修が実施できたことは素晴らしいと思います。 ・先生方の心と体の健康はとても大切なので、OJTの計画的な実施は、意識づけや意識の変化につながると思いますので、是非継続していただきたいです。 ・先生方のワークライフバランスは、今後もとても重要なキーワードとなっていくと思います。先生方の生活や体調が整っていてこそ、生徒に還元して、よりよい授業や指導を提供していただけたらと思っています。本当に先生方、いつもありがとうございます。	・ライフワークバランス調査は対象者に対し、回答率100%となった。結果については、昨年度の状況と比較することで、次年度に向けた改善事項を見いだしていきたい。 ・男性教員で育休が取得できる対象者は1名であったが、夏季休業期間を活用して育休取得できた。 ・今年度当初に、OJT責任者を指名し、年間計画を立て、年間で10回の組織的かつ計画的な研修を実施した。 ・次年度に向け、本校での地域や保護者との連携促進に向けた動きや、市教育委員会での部活動の地域移行も始まるが、教員が生徒と向き合う時間を確保できるように、関係機関等と連絡・調整を円滑に行うことが求められる。